広域人事だより

＜第10号＞

（平成28年12月28日発行　北海道教育庁総務政策局教職員課人事企画Ｇ）

広域人事で異動された先生方から近況報告をいただいたので、御紹介させていただきます。

現任校	千歳市立北栄小学校　(前任校)倶知安町立倶知安小学校	氏名	内野　晃樹

○地域・学校の様子

千歳市は北海道の空の玄関として知られる新千歳空港を有しています。周辺には工業団地が集まるなど、空港だけではなく鉄道・高速道路により全道各地への交通の便がとてもよい地域です。平均年齢が北海道で一番若い街であり、人口も増加傾向にあります。

北栄小学校は開校６３年目を迎える小学校で、校区に大型ショッピングセンターがあり千歳駅からも歩いて行ける距離にあります。また、公務員や自衛隊の官舎があり児童の転出入が多く、昔からの繁華街であったこともあり児童数は少しずつ減少していますが、活発な子どもたちを見ると地域も学校も元気な地区であることは間違いありません。

○現任校での勤務状況等

今年度は２０名の５年２組の学級を担任しています。困ったときにすぐに相談に乗ってくれる校長、教頭先生をはじめ、経験豊かな先輩たち、素直で元気な子どもたちに支えられながら今までとは違った経験を重ねています。 校務分掌では、研究部のICT係を担当しています。千歳市では全学級に電子黒板、デジタル教科書が導入されており、他のICT機器と連動しながら授業を展開していくことができます。電子黒板に触ったのも初めてで、最初のうちはよく分からなかった部分も研修を通して次第に効果的な使用法を考えるようになってきました。また、１年目から校内研の授業者をやらせていただけるなど、とても充実した毎日を送っています。

○生活の状況・その他

千歳市は交通の便がよく、お店の数や種類も充実しています。私は市外から車で通勤していますが、天候次第ではJRを利用しての出勤も可能です。子どもが小さいため、近くに病院があることや、水泳や体操などを習う施設も多くあり、選択できることが大きな魅力の一つです。

今年度は「おやじの会」というPTAのお父さん達とソフトボールの大会に多く出ました。広域人事の期間は短いですが、地域に溶け込み新しい発見をして、教員としての力をつけていきたいと思います。

現任校	千歳市立末広小学校　（前任校）様似町立様似小学校	氏名	木　元　　卓　矢

○地域・学校の様子

本校は、千歳市の中心地からやや北、千歳駅から 1.8km の住宅街に位置しています。全校児童数５２６人、学級数１７、開校６０周年を迎える伝統ある学校です。特に、「アイヌ文化学習」は高い評価を得ており、校内に、アイヌ伝統的家屋「チセ」があります。６年間で系統的に学ぶことができるカリキュラムがあり、これらを学ぶために道内外の訪問者が多いです。運動会では、児童も保護者も地域の方も一緒に、アイヌの伝統的な踊りである「ホリッパ」に取り組みます。保護者は、会社員・公務員が多数を占め、子どもに対する期待も大きく、学校教育に対する関心も深い方が多いです。地域は、見守り隊や町内会の子どもに関する活動が活発です。

学校の重点目標は、「認め合い、学び合いの中から、確かな学力と思いやりの心を育む～わたしっていいな！きみってすごい！～」であり、支持的風土を大切にしながら全職員、全児童がこれを目指してがんばっています。また、情報機器も充実しており、千歳市の全学校全学級に電子黒板、デジタル教科書が配置されています。

○現任校での勤務状況

【担任】１年３組を担当しています。ベテランの先生２名と学年を組み、いつも的確なアドバイスやサポートをしていただいています。学芸発表会や教科担当など、自らがメインをやらせていただける場面が多く、やりがいを感じています。

【分掌】生活部、校内生活係として、校内の安全や規律に関わる行事やその他取り組みを担当しています。校務部会や生徒指導委員会、さらに全校で統一された規律、具体的策など、組織的な動き方が特に勉強になっています。

【研究】広域１年目の今は、学習指導に重きを置いて研究しています。研究部から出されている、全校で統一されている学習規律とノートのきまり、研究主題を基に日々の授業作りに励んでいます。また、全校研の授業もさせていただき、多角的にアドバイスをいただくことができました。本校の研究は、特に習熟の時間の確保に力を入れており、現在も、その一単位時間で子どもたちに身につけたい力を意識して授業に臨んでいます。さらに、「何ができるようになるか」という将来的に生きて役に立つ「資質・能力」の育成も意識し、各教科の本質（多面的・多角的なものの見方、科学的なものの見方、数理的な処理の良さ、豊かな表現など）や横断的な学習（総合的な学習の時間など）について、学年を越え様々な先生方からお話を聞くことができました。

○最後に

こちらに来てからもサポートしていただいている日高教育局の方々、また、現在お世話になっている石狩教育局、千歳市教育委員会の方々に大変感謝申し上げます。微力ながら北海道の教育に貢献するため、日々目標を持って研鑽に努めてまいります。

現任校	千歳市立北陽小学校　（前任校）泊村立泊小学校	氏名	土岐　龍大

○地域の様子

千歳市は、北海道の空の玄関として知られる新千歳空港があり，札幌の周辺都市として商業施設や住環境が充実しています。また、自然も豊かで、国立公園である支笏湖や清流千歳川があり，都市機能と豊かな自然が調和した住みやすい街となっています。人口は約 9 万6千人ですが，恵庭地域へと住宅街が拡大し、人口はさらに増加傾向にあります。

北陽小学校周辺も新興住宅街であり，児童数は年々増加の一途を辿っています。今年の 7 月には児童数が１４００名を超え、全道一の大規模校となっています。児童数が多いだけに，行事には様々な工夫が施され、運動会は低学年と高学年で分けて、学芸発表会は２日間に分けて行う 2 部構成での実施となっています。たくさんの人が一斉に関わるがゆえの緻密な計画、組織的な動き，統一した指導がとても大事になり、小さい学校からきた私には本当に勉強になります。

○現任校での勤務状況等

今年度は４０名の４年生学級を担任しています。私にとって４回目の４年生ですが、４０人の担任は初めてで、学級指導や授業の展開の仕方、丸つけの量など日々苦悩しています。時には（学年の半分の）１２０人や（４年生全学級の）２４０人で体育をしたりすることもありますが、「どうしたら一回で指示が通るのか？」「どうしたらもっとわかりやすく教えてあげられるか？」など、先輩方と相談し、研修などでも意見交換ができることで、すぐに指導に生かすことができています。

校務分掌は研修部を担当しています。今年度は教師がたくさんいる北陽小学校の良さを生かし、先生方の実技講習会を行ったり、公開研以外にも研修部の先生方が授業を一本ずつ公開したりするなど、先生方のスキルアップのお手伝いが今の仕事です。特に実技講習会では、人数が多いがゆえに専門家も多い北陽小の先輩たちの、知識や授業展開、学級経営の技に本当に驚かされました。

○生活の状況

千歳市は大規模商業施設などもあり、お店の数や種類が充実しています。なので、生活するにあたって不便を感じることはありません。また、近隣の恵庭や北広島にも大きなお店があるため、教材を揃えたりするときにも困ることはまずありません。

○その他

今まで経験したことがない大規模校に勤務することで，最初は驚きの連続でした。そんな中でも、たくさんの子どもや保護者，先生方と関わりをもつことで、やり甲斐を感じ、さらに熱意をもって仕事をすることができています。前任校では、一人一人への関わりを深くもつことで、いろいろなことを学ばせてもらいました。なので、この３年間では後志ではなかなか経験できない『集団をより効率的に動かす』という部分を学び、さらに教師として成長し、子どもたちに還元していきたいと思っています。

現任校	江別市立中央中学校　（前任校）ニセコ町立ニセコ中学校	氏名	岩井　秀一

○地域・学校の様子

江別市は、石狩平野の中央に位置し、隣接する札幌市へは電車で 15 分、新千歳空港まで高速で 40 分と道路網が整備されているとても便利なまちです。市内には石狩川や野幌森林公園など、自然にあふれたまちでもあります。

江別市立中央中学校は全校生徒 613 名で私の前任校に比べると大規模な学校です。部活動が盛んであり、休日も学校で生徒を見ない日がないほどです。

○現任校での勤務状況

１年４組の担任　　分掌：生徒指導部生徒会係　　部活動：女子バスケットボール部

今年度は 35 名の 1 年生学級の担任をしています。前任校では 3 年生の担任をしていたことと、初めて 1 年生の担任をするということもあり、戸惑う場面もありましたが、学級数が６学級あるので同じ学年団の先生方に助けていただきながら毎日を過ごしています。

前任校では単学級だったこともあり、時間の制約がそれほどなかったのですが、現任校は生徒数、学級数の多さから学校全体で時間をそろえなくてはいけない場面が多くあります。生徒一人ひとりと向き合う時間を作り出すことの難しさを感じており、試行錯誤しています。

○生活の様子

量販店が多くあるので不自由なく生活しています。私の実家が道外ということもあり、空港が近いので非常に便利です。

○その他

もともと道外出身ということもあり、道内各管内の状況について直接知りたいという思いがあり、前任校の校長先生にすすめられたことで広域人事を希望しました。同じ教職という職業でも場所が変わるとやり方や考え方が違い、自分にとっていい刺激になっています。

管内での当たり前が管外では当たり前でなくなり、またその逆もあります。今回の広域人事で教師としての見方や考え方の幅を広げ３年後、後志管内に戻った時に力を発揮できるようにたくさんの経験を積みたいと考えています。

現任校	留寿都村立留寿都中学校　（前任校）千歳市立千歳中学校	氏名	澤村　拓

○地域の様子

留寿都村は、羊蹄山麓にある人口は約２千人の村です。留寿都と言えば、ルスツリゾートを連想する方が多いと思います。そのリゾートでは、遊園地やスキーの他にも、山頂からパラグライダーが滑空している姿を見ることができます。山の中にはマウンテンバイクのコースもあるとのことで、大自然の中でレジャーを満喫できる地域です。食べ物がおいしいことも留寿都の素晴らしいところです。村で収穫した野菜は、道の駅で購入できます。ルスツ豚も有名なので、こちらに来た際には、“道の駅”と、その近くにある“どんどん市”という肉屋さんに立ち寄ることもおすすめします。

村内の学校は、小学校、中学校が１校ずつ。村立の高校もあります。学校は小規模ではありますが、生徒も保護者も互いによく理解し合っているところが地域の良さと感じます。

○現任校での勤務状況

今年度は、２年Ａ組の学級担任をしています。普段は特別支援学級の生徒２名もいっしょに生活をしていて、２年生１７名の生徒たちが切磋琢磨しながら生活しています。今年度の全校生徒数は４９名で、私がこれまでに経験した中では最も少ない規模です。しかし、北海道ではこのような規模の学校が多数あることをあらためて認識しました。

各行事では、小規模校ならではの工夫がされていて、とても勉強になります。体育大会や球技大会は、全校生徒が２チームに分かれて競い合います。チームの練習では上級生がリーダーシップを発揮しており、縦割りの良さを実感しました。

校務分掌は教務部と研究部を担当しています。時間割作成では、時折“痛恨のミス”をしながら、初めての仕事に新鮮な気持ちで取り組んでいます。校内研究では２年生で「道徳」の公開授業をさせてもらいました。前任校での経験を活用し、そして学年部で題材を考えながら実施できた授業でした。

○生活の状況

学校のすぐ近くの教職員住宅をお借りすることができました。通勤は徒歩で数分。天気の良い日は、毎朝、雄大な羊蹄山を仰ぎ見ながら通勤しています。こちらの方々は、村外で買い物をするときは倶知安町や伊達市に行くことが多いと聞きました。週末には、私もそれにならって買い物に行くことがあります。

石狩の情報誌を定期的に送付してくれるので（送付していただきありがとうございます）、それを読むのも、楽しみのひとつです。今までの経験を活かし、少しでもこちらに貢献できるよう努めていきたいと思います。

現任校	えりも町立えりも中学校（前任校）岩見沢市立光陵中学校	氏名	奥　祐一

○地域・学校の様子

①地域

えりも町は日高管内最南端、日高山脈えりも国定公園の中心に位置している漁業・牧畜と観光の町です。町の西側の様似町、東側の十勝管内広尾町へとつながる段丘下の海岸線は、えりも岬を中心として、逆三角形に迫り出すダイナミックな地形に断崖や岩礁が続き、雄大な景観を形づくり、夏は多くの観光客が訪れます。しかし平均風速１０ｍをこえる強風が年間３００日を超え、交通機関にも大きな影響を与えています。基幹産業は昆布、サケ・マスを中心とする漁業、肉牛・軽種馬などの牧畜業で、特に昆布、サケ・マスの漁獲高は北海道を代表するほどの額となっています。

②学校

本校は平成１８年４月の統合により、町内１校の中学校となりました。校下は人口の約半数が集中する本町地区を中心に、笛舞小、えりも小、東洋小、えりも岬小、庶野小の５校区よりなり、３台のスクールバスによる遠距離通学は、気象条件に大きく左右されるため学校経営上でも色々制約や影響を受けることがあります。

○勤務状況

広域人事１年目の今年度は、

・第２学年　副担任　学年主任

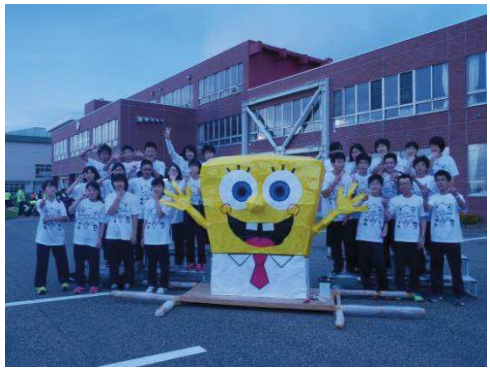
・校務分掌　研修部　道徳教育推進教師、

総合的な学習の時間担当、学力向上担当

えりも地区連携型中高一貫教育事業事務局員

・部活動　　バドミントン部顧問

として活動しています。



＜学校祭　行灯行列＞

えりも中学校は、初任校として配属され経験年数が４年以内の教員が５割を超える非常に若い集団ではありますが、皆フットワークが軽くさまざまなことにチームとして挑戦することのできる学校です。生徒たちも、純朴で素直な生徒が多く、何事にも一生懸命に取り組もうとしています。地域がら、進学先の選択肢が少ないこともあり、学習に対しては消極的な面も見られますが、学校全体で授業改善や家庭学習の取組みを進めながら、学習への意欲喚起に努めています。

○生活の状況

生まれてから昨年まで空知以外に住んだことがなかったため、海岸部に赴任することに大きな不安と期待をもっていました。突然の停電や強風・高波による道路の閉鎖、ほぼ毎日の強風など、いまだにドキドキすることはたくさんありますが、地域の方々とのつながりが強く、多くの方に温かく助けていただきながら生活しています。

コンビニやスーパーもあり、日々の生活の中で不便を感じる場面はほとんどありません。また、地元でとれた魚介類は絶品です。

○最後に

広域人事で日高管内に赴任させていただき、同じ北海道内であってもそれぞれの管内で考え方ややり方が違うということを肌で感じることができました。３年間という短い期間ではありますが、空知管内での経験を少しでも還元し、また、えりも中学校では、学年や学校をチームとして経営していくための経験を積み、自分の力量を高めたいと考えています。

現任校	えりも町立えりも中学校（前任校）岩見沢市立光陵中学校	氏名	黒沼　祥文

○地域・学校の様子

①地域

えりも町は、北海道の東南端に位置し、日高山脈えりも国定公園を中心に豊かな水産資源に恵まれた漁業と観光の町です。また、襟裳岬に「風の館」という施設があるように、日本屈指の強風地帯でもあります。「襟裳岬」や断崖絶壁の海岸が続く「黄金道路」を有し、年間３０万人以上の観光客も訪れています。地域経済の中心は昆布やサケ、ウニといった魚介類。また、肉牛・軽種馬などの牧畜業も行われています。

②学校

本校は、昭和２２年に幌泉中学校として、笛舞、東洋、えりも岬、庶野、目黒に分校を置き開校しました。その後、平成１８年４月の統合により、えりも町唯一の中学校となりました。校下は人口の約半数が集中する本町地区を中心に、笛舞小・えりも小・東洋小・えりも岬小・庶野小の５校区からなり、３台のスクールバスによって遠距離からの通学も行っています。

○勤務状況

広域人事１年目の今年度は、

・第１学年　担任　学年主任

・校務分掌　生徒指導部　生徒指導主事

・えりも地区連携型中高一貫教育事業

理科部会代表

〈見学旅行　帯広動物園〉

・部活動　　バスケットボール部顧問　　として活動しています。

えりも中学校は、経験年数が４年以内の教員が半数を占める若い教員集団です。このことをプラスと考え、若いからこそ様々なことにチャレンジをすることができる環境であると感じています。私自身のレベルアップを図るとともに、教員集団の手本の一つとなれるよう取り組んでいるところです。生徒はとてもエネルギーがあり、何事にも一生懸命に取り組みます。新しいことを吸収しようとする思いを活かし、より成長した姿をイメージしながら生徒とともに活動しています。

○生活状況

様々な地域で生活してきた経験から、今回の赴任について不安は感じませんでした。しかし、雨や高波による道路の閉鎖や停電。そして、今では日常となっている強風は驚いたところです。ですが、地域の方々は非常に温かく、とても協力的であり、心強い地域であると感じています。

○最後に

広域人事で日高管内に赴任して、新たな考え方や取り組み方を直に感じているところです。多くのものを吸収するとともに、えりも中学校にこれまでの経験の一部を還元してみたいと考えています。また、ミドルリーダーとしての役割を果たし、今後の教員人生の糧としたいと考えています。

現任校	函館市立中央小学校（前任校）奥尻町立奥尻小学校	氏名	漆﨑　彬

〇地域・学校の様子

函館市は，北海道南西部に位置している，人口２８万人ほどの中核市です。異国情緒溢れる街並みだけでなく，最近では新函館北斗駅に新幹線が来るなど，北海道を代表する観光地の一つとして，話題となっています。

このような歴史的建造物も多い函館市の中央部に位置しており，全校児童は約２７０名で，各学年２学級ほどの中規模校です。明るく，どんな行事に対しても精一杯取り組む素直な児童が多いです。

〇現任校での勤務状況

５年１組，２３名の担任をさせていただいています。学校全体で元気のよいあいさつに取り組んでいる成果もあり，毎日大きな声でしっかりとした挨拶ができる子どもたちと充実した日々を過ごすことができています。

一方前任校より，学校規模が大きくなったことで，授業展開や学級経営に難しさを感じることもあります。例えば，授業についてです。礼儀正しく，意欲のある子どもたちとともに，日々授業を行っていますが，少人数学級であった前任校とは違い，２０名を超える児童が教室にいる中で，全員が理解できる授業づくりをすることが難しいです。また，前任校は全学年１クラスだったのですが，現任校では２クラスということもあり，学級間で授業の内容や進度をそろえることにも不安がありました。しかし，一緒に学年を組んでくださっている先生が，小さなことから優しく指導してくださるおかげで，だんだんと授業の仕方が分かったり足並みをそろえるということの意味を理解したりすることができてきました。

分掌では，保体部を担当させていただいています。前任校の５倍以上の児童数の学校での指導は難しいこともありましたが，保体部長をはじめ，先輩の先生方にやさしく教えていただき，全体指導のポイントなどもつかむことができました。

〇生活の様子

市内には大型のスーパーやショッピングモールなどが充実しており，不自由なく生活することができています。

〇そのほか

初任で奥尻島に勤務してから，初めての島外の学校。しかも，管外の学校ということもあり，赴任してから数か月は，さまざまな取組に戸惑いを感じながら，緊張や不安の多い日を過ごしてきました。しかし，校長先生をはじめとする先生方や子どもたちに温かく迎えていただき，今では落ち着いた教職生活を送っています。また，学級経営や授業等についても，主幹教諭・教務主任など，たくさんの先生方に支えていただいています。中央小学校で勤務させていただいたことは，自分にとって大きなプラスとなっています。この経験を，管内に戻ったときにも発揮していきたいと考えています。

現任校	函館市立深堀中学校　（前任校）せたな町立北檜山中学校	氏名	種市　竜太

○地域・学校の様子

函館は道南の中心都市であり、五稜郭、函館山、朝市など観光名所がたくさんあります。本校は函館の中心部にあり、芸術ホール、函館アリーナ、図書館、陸上競技場などの教育施設も充実しています。

本校は全校生徒が２８７名、各学年３クラス編成、特学１クラスの１０学級です。「やる気がひかり、思いやりのある生徒」の育成を目標とし、毎日の授業、体育大会や文化祭などの行事、様々な場面でやる気・思いやりをテーマとして生徒に意識させています。また道徳の教科化や次期学習指導要領への対応を図るための校内研修が熱心に行われ、先進の教育動向を踏まえた取組が日常的に行われています。

体育大会での学級写真

生徒は、生活のきまり、学習規律等をしっかり守る意識が高く、誰に対しても分け隔てなく挨拶ができることや、生徒会の募集する様々なボランティア活動にも積極的に参加する姿勢が身についています。授業に対しても集中して参加し、自分の意見を述べ、周りの意見にも傾聴する学習姿勢が確立されています。地域・保護者も学校を深く信頼し、ＰＴＡ活動にも進んで参加しています。特に、保護者・教職員・生徒のふれあいを目的とした「ふれあい広場（バザー）」は１７回を迎え、広く市内全域に本校の教育内容を伝える地域公開実践（全教科公開と全学級の道徳の公開）は１５年を迎え、今年度も１５０名を越える参加者が来校し成功裡に終了しています。

○勤務状況

担当学年：２学年担任

教科：１、２年理科（５学級）など

校務分掌：教務部

部活動：バドミントン部

北海道道徳教育パワーアップ研究協議会で授業公開

着任し２年生を担任しています。１年生から、集団行動の大切さや学習に参加する態度について凡事徹底されており、２年担任としてスムーズな学級びらきをすることができました。学級経営では、毎朝学年打ち合わせを実施し、またタイムリーに学年部会が開催され、情報交流や生徒指導上の問題解決にむけ役に立っています。また、本校は学年の垣根がなく、互いに生徒の小さなサインの変化についても即時に交流ができる同僚性があり、校長先生を中心に一枚岩で学校が動いています。教科指導等では、複数の理科教師（校長・教頭も理科専門）の存在で、授業の課題が整理できることや、市内の中学校理科教育研究会や道徳教育研究会等の研究サークルに所属することでたくさんの教師仲間と出会いました。前任校では難しかった研究サークルでの活動を通して学ぶ機会が大幅に増えスキルアップに役立っています。また本校は、校長先生自ら道徳の授業を公開したり、副担任も道徳を指導する「道徳ローテーション」が行われ、全教師が指導案を作成し授業を公開する「一人一授業」の実施等、日々授業改善に取り組む学校体制が確立しています。従って自分自身も道徳や理科の授業を公開する機会を与えてもらい、職場の同僚やサークル仲間から多くのことを学んでいます。

○結びにかえて

広域人事１年目で、とにかく目の前の仕事をこなすことが精一杯の状況です。しかし明るく前向きな生徒、いつも温かく励まし賞賛の声がけをしてくれる校長先生をはじめ職場のすべての職員のお陰で充実した教育実践をしています。教育に完成形はない、しかし目の前の生徒たちのために全力をつくす、チーム深堀のテーマ「永遠の未完成　これ完成なり」を胸に秘め、これからもたくさんのことを吸収し学びたいと思っています。

現任校	七飯町立大中山中学校　（前任校）美幌町立美幌中学校	氏名	田村　愛花

○地域・学校の様子

七飯町は、渡島半島南部に位置し、函館市から約 16km の距離にあり、稲作や畑作がさかんな土地で、「 日本の道百選 」に選ばれた歴史街道「 赤松街道 」や新日本三景に選ばれた北海道駒ヶ岳を望む大沼の風景などで全国的に知られており、りんごの町として有名です。

私が勤める七飯町立大中山中学校は、全校生徒３１９名で学級数１３（特別支援学級３を含む）の学校です。生徒は素直で明るく、何事にも一生懸命取り組むことができます。また、地域の方のご協力をいただいて、プルタブ回収などのボランティア活動や、小学校と連携しての小中合同挨拶運動など、生徒会の活動も盛んです。

○現任校での勤務状況

現在、１年Ｃ組２７名の担任をしています。幼い部分はまだありますが、素直で明るく、優しさを持っている子が多い学年です。私自身、初めての転勤で学校の変化に戸惑う日もありましたが、先生方や

山中生のみなさんに教えてもらいながら毎日楽しく過ごしています。校務分掌は生徒指導部に所属し、選挙管理委員会や生徒会誌編集委員会の担当をしています。また、部活動は男子バスケットボール部をもっており、現在２８名の部員と日々頑張っています。経験者が少ないチームですが、ありがたいことに南北海道大会へ出場することができました。職場にも生徒にも保護者の方々にも恵まれ、充実した日々を過ごしています。

○生活の状況

夫が福島町に勤務しているため、木古内町から毎日４０ｋｍほど通勤していますが、函館江差自動車道が通っているためそれほど大変ではありません。町内にスーパーやコンビニ、ドラックストアと揃っており、農家さんの直売所もあるので、新鮮な野菜や果物を安く買うことができます。函館からも近いので買い物で不便を感じることはありません。また、春には桜、秋には紅葉がとても綺麗で、夜には函館の夜景が見えるので季節によって楽しめる素敵な町です。

○その他

まだ赴任して半年ですが、他の地域を知ることはとても貴重な経験だと実感しています。同じ北海道でもそれぞれの地域性があり、新たな発見が多く、自分自身が成長できる機会がたくさんあります。３年という限られた期間ですが、もっともっと色々なことを吸収し、戻った際には還元できるようにしていきたいと思っています。広域人事という学びの機会をいただけたことに感謝しつつ、日々精進していきます。

現任校	今金町立今金小学校　（前任校）函館市立北昭和小学校	氏名	高　橋　　学

○地域・学校の様子

檜山管内北部に位置する今金町。今金町は“読書と作文”に力を入れて取り組んでおり、それを受けて学校では朝学習の中で読書や作文に取り組む日を設定しています。また、稲作畑作が基幹産業であり、学校給食にも地元でとれた様々な食材が使われ、毎日おいしい給食をいただくことができます。さらに、ふるさとの恵みに感謝する日があり、この日は、新米のおにぎりと今金男爵の塩煮、ご汁が出されます。地元の食材のみを使って作られ、子ども達にもとても好評です。学校だけでなく、町が一丸となって子ども達のためにできることを考えており、教育にとても力を入れている町です。

今金小学校の児童数は１８８名で管内では１番人数の多い学校になります。昨年から文部科学省のＩＣＴ指定校として研修を進めてきており、タブレットやネット環境も充実してきています。先日１１月１０日には公開研究会を行い、１００名以上の先生方や教育関係者の方々が参加し、盛大に行うことができました。

行事関係では、年度当初に運動会に向けて高学年が鼓隊を編成し練習を始めます。運動会前日に地域を回り、たくさんの方々に運動会開催と交通安全を呼びかけます。学習発表会では、それまで取り組んできた絵画や習字などの作品を展示します。

いろいろな場面で、保護者のみならずたくさんの地域の方々に日頃の様子を見ていただくことができます。

○勤務状況

４月に着任し、半年以上が過ぎました。これまでの勤務地とは違い、地域とのつながりや交流がとても盛んだと感じます。５年生を担任していますが、単学級は初めての経験です。総合的な学習の時間での田植えや稲刈り体験、町内体育交流学習など、この地域ならではの取組があります。私にとってはすべてが初めての取組ばかりで、気持ちを新たにしているところです。校長先生、教頭先生をはじめ、たくさんの先生方に声をかけていただきながら、１つ１つ手探りで取り組んでいる状況です。たくさんの協力に感謝しながら日々過ごしています。逆に私が今金小学校のために何ができているのかと考えると、まだまだ力が足りていません。

５年生の子ども達は、とても個性豊かで賑やかなクラスです。何でもない話で盛り上がり、笑いが起こります。そんな子ども達の様子や笑顔を見ていると、心が癒やされます。子ども達のためにも、少しでも早く今金小学校や地域の力になれるよう、周りの声に耳を傾け、いろいろなことを吸収していきたいと思います。

現任校	せたな町立北檜山中学校　（前任校）北斗市立上磯中学校	氏名	水口　　力

〇地域・学校の様子

平成１７年に北檜山町、瀬棚町、大成町の３町が合併してできたせたな町は、北海道の南西部に位置し、北部に狩場山、南西部に日本海、中心部には清流日本一の一級河川後志利別川が流れる魅力あふれる町です。豊かな自然から生まれる四季折々の山海の幸が楽しめます。

北檜山中学校は全校生徒９９名、小規模校になります。部活動、文化活動そして学校行事も盛んな学校で、生徒は様々な場面で活躍しています。地域の熱心な協力に支えられながら育ってきた生徒たちは純朴そのもので素直で、良好な教育環境下にあります。学習に意欲的に取り組む様子は見られますが、更なる学力向上が課題となっています。

〇現任校での勤務状況

担当学年：１学年担任
教　　科：全学年保健体育
校務分掌：生徒指導部
部 活 動：野球部

１学年は２クラスあり、そのうち１クラスを担任させていただいています。生徒は非常に元気で明るく、楽しいことが大好きな子どもばかりです。保健体育科の授業では、生徒が主体的に学べるような学習課題を設定し、グループ学習の中で問題解決できるような支援を目指しています。また、学習規律が定着してからは、以前よりも意欲的に取り組み、日々の成長がわかります。分掌は生徒指導部に所属し、生徒指導全般の業務の企画・推進をしています。しかし、わからないところは、周りの先生方の温かいサポートがあり、助けられています。部活動は野球部を担当しています。今年は中体連で全道大会に出場することはできませんでしたが、新人戦では全道優勝し、来年３月には全国大会へ出場します。この結果は生徒自身のがんばりや保護者ならびに地域の方々のご協力があったからです。これからも全道大会上位進出を目指して、練習にも力を入れていきたいと思っています。

〇生活の状況

せたな町の人口は、約８千５百人です。生活環境も相応に整っています。スーパーやドラッグストア、コンビニなどもあり、生活に不便を感じません。また、病院や図書館、総合体育館など各種施設も充実しています。また、函館市まで車で約２時間２０分、隣の八雲町まで約１時間で行けのるので足りないものがあれば買いに行けます。

〇最後に

住み慣れた土地を離れることは大変でしたが、町や職場の方々も温かく迎え入れてくださり充実した毎日を送っています。様々な実践に触れたり、たくさんの人に出会ったりすることで自分自身のものの見方・考え方が広がり、子どもたちの成長を地域の方々と共に喜び合えるように日々研鑽に努めていきたいと思います。